



サルバドール・ダリ—天才の秘密—
ダリ展開催にちなみ、ダリゆかりの場所を紹介します。

サルバドール・ダリ(1904-89)の生誕120周年、シュルレアリスム宣言100年の記念すべき節目に開催する本展は、世界屈指のダリ・コレクションを形成する諸橋近代美術館の所蔵品を中心にダリの生涯を概観し、ダリの渡米以降の活動にも注目します。ダリが私たち観衆に魅せた「シュルレアリスト・ダリ」とその背景にある「人間・ダリ」の複雑で繊細な内面を探り、世界中で愛されているサルバドール・ダリがいかなる芸術家であったのか、油彩、素描、版画、彫刻のほか、ミロやマグリットなどシュルレアリスムの作家の作品群など約120点により明らかにいたします。

Corridart

横須賀美術館ニュース「Corridart」vol.30
発行：横須賀美術館 〒239-0813 横須賀市鴨居4-1
Tel.046-845-1211
ホームページ <https://www.yokosuka-moa.jp/>

横須賀美術館ニュース
NEWS FROM YOKOSUKA MUSEUM OF ART

30

2025.2
volume.

「Corridart」(コリダール)とは、corridor(回廊)とart(美術)の二つのフランス語を合わせた造語です。横須賀美術館地階の回廊型のギャラリーにちなんで名づけられました。

【特集】
令和6年度第4期所蔵品展
コレクションに
加わった
新しい仲間たち

【展覧会紹介】
生誕120周年
サルバドール・ダリ
—天才の秘密—

【この1点】
愛囀《クレーンと人》

【お知らせ】
「ポケット学芸員」と
館内Wi-Fiのご案内

編集：横須賀美術館／令和7年2月発行
デザイン：tesusu Inc.
印刷：ニューカラー写真印刷株式会社
*このニュースは8,000部作成し、1枚あたりの印刷費は約46.5円です
横須賀美術館の情報は公式XやFacebook、Instagram、YouTubeでもご覧いただけます。



車上彫刻(アトキ) - a-osa-shi - a-osa-shi - ©Daigo Moriyama Photo Foundation

日本で
ダリを訪ねる

1 諸橋近代美術館

公益財団法人諸橋近代美術館は、ゼビオホールディングス株式会社の創立者諸橋延蔵(もろはし いざう、1934~2003)が約10年にわたり蒐集した美術作品、美術館用地、建物等を同財団に寄付し、1999年に故郷である福島県の会津磐梯高原に開設しました。とりわけサルバドール・ダリのコレクションにおいては、アジア随一の規模を誇り、本展にも数多くの作品を出品いただいています。
ホームページ <https://dali.jp/> ※現在、2025年4月11日(金)【予定】まで冬期休館中



スペインに
ダリを訪ねる



2 ダリ劇場美術館

ダリの生まれ故郷フィゲラスには、屋根には卵が、赤い壁にはパンがあしらわれたインパクトの強いダリ劇場美術館があります。もともと市民劇場であった建物は、作品10,000点以上を収蔵する美術館です。外観だけではなく、中も驚きに満ち、楽しい美術館です。



3 ダリの家 inカタケス

スペインの北東部、カタルーニャ地方フィゲラスに生まれたダリは、公証人の子息として裕福な家庭に育ちます。また、家族と夏を過ごした別荘地近くの漁師町カダケスのそばにあるホルト・リガトに、ダリは漁民の家を手に入れます。ダリと彼の妻ガラは、生涯をかけて少しずつ手を入れて、理想の家を作りました。

海の近くの理想の家

4 ダリの家の中の海

写真に示したように、家の目の前には海と、その奥にはなだらかな緑の島が見えます。本展の出品作にも家の近辺をはじめ、カダケスの沿岸の風景がしばしば描かれています。ぜひ会場でも同じ風景を探してみてください。



会場限定

ダリ展 オリジナルグッズ

本展の開催にあわせて、ポストカード、クリアファイル、トートバッグ、Tシャツ、額絵などたくさんオリジナルグッズが販売されます!会場ではか手に入りませんので、お見逃しなく。

この1点 愛囀《クレーンと人》

1954年 77.3×92.0 油彩・合板



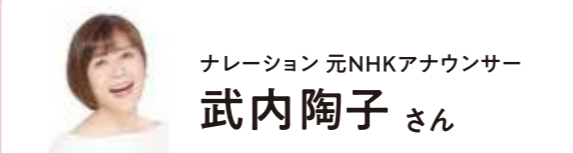
今回は、「虹の画家」と称される愛囀(1931-)の初期作品を紹介します。愛囀は、幼い頃から絵画や演劇に興味を持ち、50年に東京教育大学(現:筑波大学)芸術学科に入学します。その在学中の53年、愛囀に初めの転機が訪れます。「デモクラート美術家協会」(以下デモクラート)への参加です。デモクラートは、瑛丸(1911-60)を中心に既存の公募美術団体の審査制度や階級制度に異を唱え、それに賛同した者が集まって活動を行っていました。

美術上、表現上の共通理念を持たず、画家だけでなく、デザイナーや写真家、ダンサーなどがジャンルを横断して参加した開かれたグループで、会員たちは年齢差に関係なく、作品や芸術論について熱く議論を交わしつつも、互いの「自由」を尊重しながら活動を行っていました。愛囀は、このデモクラートの環境を「ぼくにとってユートピアだった」と語り、「生涯初めて尊敬できる人間」であった瑛丸を筆頭に、他の作家たちと交流を深め、自らの表現を追求していきます。そのなかで、愛囀の作品にも変化が表れます。これ以前は「若くして戦争を経験したジェネレーション特有」と語った喪失感や、青年期の歯がゆさや葛藤、アカデミックな大学の教師たちへの疑問など、多感で痛々しいまでの内面を反映した「悲劇よりも悲痛なるもの」の静寂と銘打ったシリーズを描いていました。しかし、新しい時代を前向きにとらえ、デモクラートで獲得した「自由」のなかで自信と意欲を得た愛囀は、本作のような、明るくダイナミックな色彩を用いて、農村風景や建設中の鉄骨やクレーンと社会のなかで生きていく存在としての単純化した人間像を組み合わせた作品を発表しました。なお、愛囀という号ですが、アイウエオのなかで、友人に人気があったアイ・オからつけたといわれています。サインは、「O Ai」と綴られたものが多く、瑛丸のサイン「Q E i」に倣ったことだといわれています。また、54年頃からは「(I)」ではなく「y(Y)」で綴るようになったのは(本作では「O Ai」)、観覧者から「アイオーと読ませたいなら、iをyに変えるべき」と指摘されたことによるとのことです。(K.R.)

お知らせ 「ポケット学芸員」と館内Wi-Fiのご案内



横須賀美術館では、スマートフォンアプリ「ポケット学芸員」にて、一部の所蔵作品について、作品解説と作家略歴を配信しています。また、一部の作品には、英語による解説、元NHKアナウンサー・武内陶子さんと横須賀総合高校演劇部の皆さんによるナレーションがあります。館内Free Wi-Fiと併せてぜひご利用ください。



ナレーション 元NHKアナウンサー
武内陶子 さん
愛媛県生まれ。1991年NHK入局。在局中は朝のニュース番組をはじめ数多くの番組で司会、キャスターをつとめ、2003年には「第54回紅白歌合戦」の総合司会をつとめた。2023年にNHKを退職。現在はフリーとして活躍中。2024年愛媛・伊予観光大使、大洲市きらめき大使に就任。



館内 Free Wi-Fi
ID:yokosuka-moa
PW:12345678

生誕120周年 サルバドール・ダリ—天才の秘密—

会期	2025年2月8日(土)~4月6日(日)	主催	横須賀美術館、NHKプロモーション
開館時間	10:00~18:00	特別協力	公益財団法人諸橋近代美術館
休館日	3月3日(月)	観覧料	一般1400円
2月16日(日)は無料観覧日 (市制記念日2月15日直近の日曜日)		その他、展覧会情報は当館HPをご覧ください。	

1 森山大道

Daido Moriyama

飛躍のきっかけとなった 横須賀の風景

現代日本を代表する写真家のひとり、森山大道は、63年に逗子に移り、フリーカメラマンとして活動を始めました。その頃、好んで被写体としたのが、駐留米軍の影響が色濃かった横須賀です。連日、横須賀線で通い、通勤人に訝しがられながら、時にノーファインダーで撮影された作品群は臨場感に溢れ、後に「アレ・ブレ・ボケ」と称される森山独自のスタイルの先駆けとなりました。撮影場所は、ドブ板通り周辺とする一帯で、作中には、平板のアーケードや、EMクラブの櫓を思わせるものが写り込んでいますが、具体的な場所は特定できていません。それだけ、横須賀の街の様子が移り変わっているといえるでしょう。



もりやま だいどう (1938年~)

大阪府に生まれる。61年に写真家集団「VIVO」参加のため上京、翌年、細江英公の助手を務める。その後独立し、逗子市に転居。64年頃から、横須賀に通い撮影を行う。67年、「にっぽん劇場」シリーズなどにより、第11回日本写真批評家協会新人賞を受賞。その後、「アレ・ブレ・ボケ」と称されるハイコントラストで粒子の粗い作風で注目を集める。以降、精力的に活動、発表を続け、現代日本を代表する写真家として広く認知され、メトロポリタン美術館などで個展を開催するなど、世界的な評価も高い。



ホートレド 横く4点 (ヨコスカ) 1965年/2024年



©Daido Moriyama Photo Foundation

特集 令和6年度第4期所蔵品展

コレクションに加わった

あたらしい仲間たち

New Collections

横須賀美術館では、令和元年度より、コレクションを充実させるための「美術品等取得基金」を設置し、令和5年度は、写真家・森山大道が1960年代の横須賀を撮影した作品群を購入し、その他にも、川田祐子、中村光哉、谷内六郎らの作品・資料をご寄贈いただきました。令和6年度第4期所蔵品展と谷内六郎《週刊新潮 表紙絵》展では、これら令和5年度に新たに収蔵された作品を紹介いたします。

作品購入にあたり、多大なご寄附を賜りました皆様の温かいご支援にあらためて心よりお礼申し上げます。また、貴重な作品をご寄贈くださいました所蔵家の方々に厚くお礼申し上げます。

2 川田祐子

Yuko Kawada

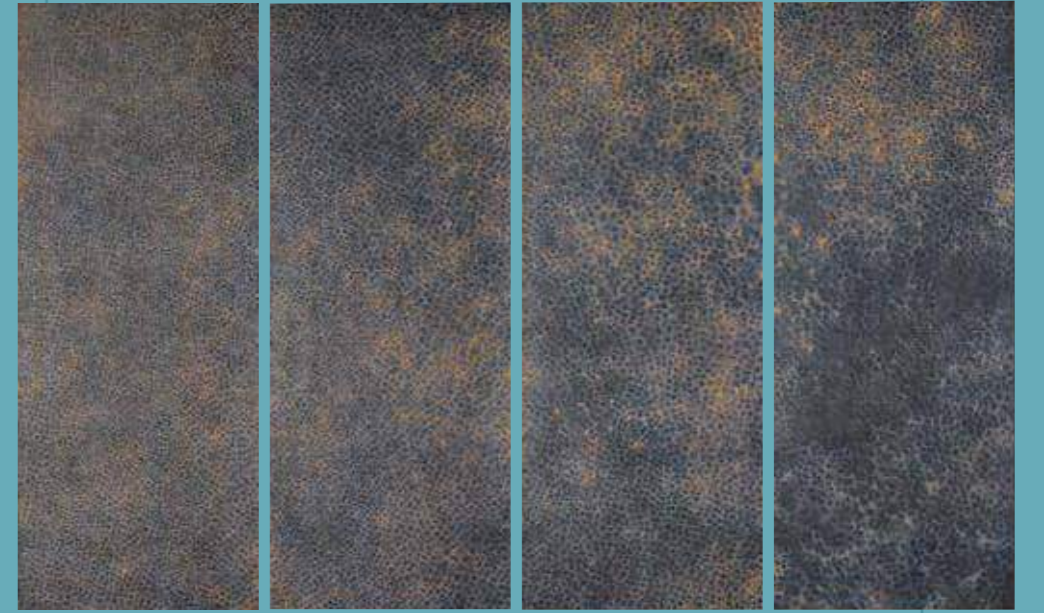
対面して感じる緻密な美

川田は制作を通じ、個人的な経験や時間を、作品に定着させようとする。「硯海」とは、墨を溜める硯のへこみのこと。作者の父が愛用した硯には、蟹のデザインがあらわれていたといえます。また、幼少期を過ごした横須賀市長沢の海辺は、砂鉄を多く含んだ黒い砂浜であり、そのことも、硯と海の記憶が重なり合う要因となったでしょう。カッターで画面に細かな傷を刻む「スクラッチ技法」は、本作を制作したころ、作者独特のスタイルとなりました。



かわた ゆうこ (1962年~)

東京都小金井市に生まれる。89年まで横須賀で育つ。86年から87年に旧西ドイツに留学。88年女子美術大学を卒業し、91年横浜国立大学大学院修了。95年から個展で作品を発表し、2003年からはKANEKO ART TOKYOで毎年継続的に発表している。横須賀美術館では、16年に所蔵品展特集として「川田祐子展 千年の翠」を開催した。



(硯海) 2006年

3 中村光哉

Koya Nakamura

独自の表現に合った「黒の時代」

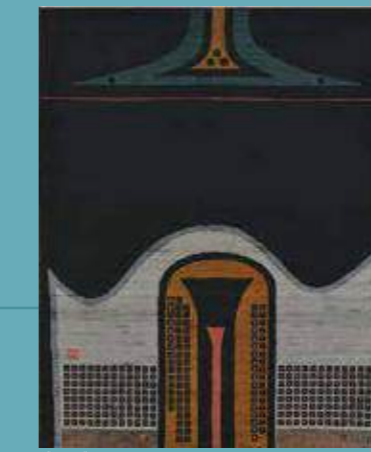
友禅作家のもとに生まれた光哉は、東京美術学校を卒業後、友禅から意図的に離れ、ろうけつ染による「黒」を基調とした作品を80年頃まで発表します。ご寄贈いただいた2点は、この「黒の時代」と呼ばれる時期に制作された作品です。《道徳》は、この頃の特徴である象形的なモチーフを用いた作品です。《雲とさざなみ》は、独特の表情を見せる黒糸を織り込んだ綿布に、雲を文様・様式化したモチーフを施しています。



撮影:松本亮吉

なかむら こうや (1922年~2002年)

東京に生まれる。父は友禅染色工芸作家・中村勝馬。40年東京美術学校日本画科入学。44年同校を繰上げ卒業。45年復員し、父に染色を学ぶ。46年日展(やなぎ)で初入選。以後、日展に作品を発表し続ける。62年東京藝術大学に染色教室が設けられ講師となり、67年には同校染色講座助教授、78年には教授となる。65年より日展会員、82年に評議員となる。80年代より黒を基調とする作風から友禅による多色染めへと技法を変える。84年に横須賀市西海岸を望む高台に住居を移し、制作を行った。



(道徳) 1975年頃



(雲とさざなみ) 1975年

4 谷内六郎

Rokuro Taniuchi

知られざるろうけつの作品

谷内六郎の兄・四郎が中心となって経営していた「らくだ工房」で制作された作品です。ろうけつ染は、絹の厚みによって色の濃淡に違いが生まれます。固まった絹にひびを入れると、その部分に染料が入り複雑な模様ができます。らくだ工房ではハンカチや風呂敷、帯、屏風などがつくられました。特に少女をモチーフにした、六郎らしい絵柄の製品は人気を博したようです。



(らくだ工房ハンカチ) 1949年-57年頃 ©Michiko Taniuchi



らくだ工房の様子。ハンカチを吊って乾燥させている。



たにうち ろくろう (1921年~1981年)

東京に生まれる。35年小学校を卒業後、輸出用クリスマス電球の工場、看板屋、図案社などの仕事を経験する。この頃から漫画や似顔絵を新聞や少年雑誌に投稿し始め、「キング」「報知新聞」などに掲載される。55年「行ってしまった子―大人の絵本―幼き日の夢より」と題した一連の作品で第1回文藝春秋漫画賞を受賞。翌年から「週刊新潮」の表紙絵を描く。挿絵をはじめ、本の装丁や詩作を手がけ、幅広く活動する。家族とともにたびたび観音崎を訪れ、75年には、横須賀市鴨居にアトリエを構えた。

別館「谷内六郎館」にてご覧になれます

展覧会情報

令和6年度第4期所蔵品展 特集:新収蔵作品展

谷内六郎《週刊新潮 表紙絵》展
ろうけつ染の世界 新収蔵作品を交えて

会期	2025年3月1日(土)~5月11日(日)
開館時間	10:00~18:00
休館日	3月3日(月)、4月7日(月)
観覧料	一般380(300)円 高校生・大学生・65歳以上280(220)円、 中学生以下無料

- *1)内は20名以上の団体料金
- *高校生(市内在住または在学に限る)は無料
- *身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳をお持ちの方と付添1名様は無料
- *谷内六郎館を含む
- *企画展チケットでもご覧いただけます。

会場 地階 所蔵品展示室
別館 谷内六郎館

ふるさと納税で
美術を応援!

横須賀美術館では、作品収集のための「美術品等取得基金」を設け、寄附金を募集しています。詳しくは、横須賀美術館 寄附で検索。

横須賀美術館
公式ホームページ
(ご寄附のお問い合わせ)